

【暗唱聖句】

「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあって、わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである」出エジプト記 19:5

【日曜日・契約の基礎】

創世記 17:2 「わたしは、あなたとの間にわたしの契約を立て、あなたをますます増やすであろう。」

旧約聖書の中には、契約という言葉が 287 回出てきます。この言葉は、二者が一つに結び合されることを意味しています。神様と人間との間で交わされた契約には、以下の基本的要素が含まれています。

① 神様は契約に伴う「約束」を誓われた。

ヘブライ 6:17 「神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変わらないものであることを、いっそうはっきり示したいと考え、それを誓いによって保証なされたのです」

② 人間の側の契約に伴う義務は、十戒に現わされた神様の意志に従うこと。

③ 神様の側の契約に伴う義務は、キリストを通して贖いの業がなされること。

神様の義務である十字架での贖いはすでになされました。残されているのは、私たちの側の義務だけです。それにより、御国を受けつぐとの契約は成就します。私たちの果たすべき義務とは、悔い改めて神様のものに立ち返ること、そして神様の愛を信じ、その愛の中に生きることです。

【月曜日・ノアと契約】

創世記 6:18 「わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい」

聖書の中で最初に契約という言葉が出てくるのは、ノアの洪水の場面でした。その契約とは、地上に罪が満ち、神様は人間を造ったことを後悔して世界が滅すと決められたとき、ノアとノアの家族だけは助けるというものでした。この契約に関して神様の約束は、ノアと家族を守るということでした。また、そのためにノアがすることは箱舟を造り、家族と一緒に舟の入ることでした。一見単純な契約に見えますが、舟を造るのに 120 年という膨大な時間と労力が必要でした。また、雨が一度も降ったことのない世界において、人からばかにされても、本当に洪水は起こるのだと信じなければなりません。ノアの洪水は一方的な神様の御業のようなイメージがあるかもしれませんが、少なくとも神様はノアが舟を完成させるまで洪水を起こすのを待ってくださいました。せかすことなく、ノアの歩みに合わせて下さいました。契約関係はどちらかの一方的なものではないということです。

【火曜日・アブラムの契約】

「主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福し、あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」 12:1~3

神様はアブラムと祝福の契約をしました。その祝福はアブラムのみならず、「地上の氏族はすべて、アブラムによって祝福に入る」という壮大なものでした。この約束は、やがてアブラムの子孫の中から生まれ出るイエス・キリストによって、最終的な実現を見ることとなります。

また、神様は「わたしはあなたを大いなる国民にする」「あなたを祝福する」「あなたの名を高める」というように、「わたしは～する」と言って、神様のアブラムに対する約束が繰り返されています。この約束を成就するためには、アブラムは生まれ故郷、父の家を離れて、神様が示す地に行かなければなりません。これはノアのとおり、信仰が必要でした。信仰の旅立ちが求められたのです。神様との契約は、信仰とそれに伴う行いが求められるということです。その信仰による行いは、神様に対する愛が土台になっています。

【水曜日・モーセと契約】

出エジプト 6:6 「それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う」

神様はモーセに対して、イスラエルの民をエジプトの奴隷から解放すると約束されました。そのためにモーセはエジプトの王ファラオのもとに行き、イスラエルの人々をエジプトから連れ出さなければなりません。ノアやアブラハムとの契約と異なるのは、敵がいたということです。強力な敵と戦うというのは、単に旅立つ以上の信仰と勇気のいるものです。このような契約関係を結びたいと思う人はいないかもしれません。むしろ、これは神様の選びであり、モーセが生まれながらにしてもっていて使命でもありました。しかし興味深いのは、この契約は突如わきおこったものではなく、アブラハムとの契約から続いているものだったということです。

出エジプト 6:3～5 「わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブ…と契約を立て、彼らが寄留していた寄留地であるカナンの土地を与えると約束した。わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。」

神様は、エジプトの地で奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、契約を思い起こしたと言っています。もちろん、神様は約束を忘れる方ではありません。ここではイスラエルの人々のうめき声を聞いた、という点が重要な点でしょう。神様がアブラハムと結んだ契約で重要なのは、①主の民に対する神の特別な関係。②彼らは大いなる国民となる。③服従が求められる。

エジプトから脱出した後モーセを通してイスラエルの民に十戒が与えられ、神様がイスラエルの神となり、イスラエルが神の民となるという契約関係が成立しました。これを〈シナイ契約〉と言います。これは神様と人間との関係が人格的倫理的であるという性格を確立し、この後イスラエル宗教は人間の側の契約違反の罪とそれに対する審判、そして契約の再建と更新という仕方で展開していきます。

また、このシナイ契約において重要なのは、まず先に神様がイスラエルを奴隷から解放した後に、十戒の守るべき律法が与えられたということです。

【木曜日・新しい契約】

エレミヤ 31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

主は、新しい契約を結ぶ日が来ると言われました。その契約は、「かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない」(エレミヤ 31:32) と言います。なぜなら、「主が彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破ったからだ」と主は言われました。では、新しい契約とはどのようなものなのでしょうか。

エレミヤ 31:33 「しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す」。

心の中に、神様の律法、神様の御心をしるすというわけです。善悪の判断や何が御心なのかを、その都度、聖霊によって教えてくださるということです。また、古い契約と同じ約束として、はっきり示されているのは、「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」(エレミヤ 31:33) ということです。

エレミヤ 31:34 「そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない」

心の中に聖霊が働くと、神様がわかるようになります。そして、神様を知ることは、永遠の命とつながって行きます。ヨハネ 17:3 「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」